

【資料1】

事例概要 T. T. さん

< 分野名 > 介護

< 所属機関名 > K生活介護事業所

<「前事業所でトラブルを起こし、退所後在宅で生活していた方を支援する事例」>
～サービス管理責任者の仕事の役割・流儀を考える～

1 支援の概要

X県A市在住。22歳。知的障害・てんかん・療育手帳A。
 障害支援区分4。身長160cm 体重70kg

M県で出生。中学部3年の時に両親がマンションを購入し、X県に転入。特別支援学校高等部卒業後、近隣のB作業所（地域活動センター）へ約3年通うが、他者に手を上げてしまったというトラブルを起こし平成30年6月に退所。その後現在まで自宅で生活している。3ヶ月経過した頃から「外に行きたい」と言うようになり、母の勤務中などに外へ出て、マンションの管理人から母の勤務先へ連絡が入るようになった。また母とのやり取りの中で不安定になる様子も見られ始め、母は自宅でのT. T. さんの世話に限界を感じている。

平成30年10月、母がT. T. さんの特別支援学校時代の同級生の保護者からサービス利用計画の話の聴き、市内のC相談支援事業所に相談を依頼する。C相談支援事業所はT. T. さん・母と数回面接を実施し、サービス等利用計画（案）の作成と、K生活介護事業所を日中支援の場として紹介する。依頼を受けたK事業所は、利用前の事前実習を5日間実施した。

2 状況

(1) 氏名、性別： T. T. さん 男性

(2) 年齢22歳 平成8年4月5日生

(3) 生育歴（出生後の経過、学歴、職歴等）

別紙「K生活介護事業所サービス利用受付表」参照。

(4) 障害について（発病または受傷時の状況、治療経過、現状等）

知的障害・てんかん・療育手帳A（重度）。障害支援区分4。

(5) 家族状況（続柄、年齢、職業、協力関係等）

(父)57才。会社員。T. T. さんが中学部3年生から会社の都合で単身赴任。

(母)53才。主な介護者。家計を助けるため、平日週2回パート勤務。

(姉)28才。主婦。子どもが一人。隣の市に在住。

(6) 経済状況（利用者及び世帯の収入状況等）

障害基礎年金1級。父の収入と、パート勤務の母の収入があるが、住宅ローンを抱えている。

(7) 利用しているサービス等と生活サイクル

現在受けているサービスは無い。

学生時代から朝なかなか起きられない。現在は母がパートで出勤する8時半になっても、未だ寝ていることが多い。

日中、母がパートに出ている間、家でテレビを観たり雑誌を見て過ごしている。

3 支援の経過

(1) 相談とアセスメント

① 相談受付 平成30年10月3日 C相談支援事業所に相談

B作業所を退所してから約4ヶ月経過した。1ヶ月程前から「外に行きたい」と言うようになり、母が勤務中に外出したり、母とのやり取りの中で不安定になる様子も見られ始めた。日中一人で何もしていないことが多く、T. T. さんの将来に不安を感じるなど、世事に限界を感じ、母がC相談支援事業所に相談をした。

② アセスメントの概要 **～詳細はアセスメント資料を参照～**

<これからに向けた本人の意向>

また仕事をしてみたい。
電車やプロ野球を見に行きたい。

<コミュニケーション>

言葉による意思疎通は可能。ひらがなの読みは可能。自分の名前は書ける。

<健康面>

抗けいれん剤を朝夕の2回服用しているが、年に数回発作あり。自ら健康状態を訴えることは困難。通院は月1回母が同行。母は医師からの薬の処方に関して疑問を持っており、体調によって服薬を調整している。

③ これまでの支援の概要

<B作業所での状況>

B作業所に約3年通い、生産活動として軽作業を行っていたが、他者に手を上げてしまうなどのトラブルを起こし、平成30年6月に退所。

④ K生活介護事業所の概要と実習状況

定員30名の通所の事業所。主に知的障害の方が利用している。年齢は18歳から50歳と幅広い。送迎あり。電子部品組み立てといった受注作業やクッキー作りの自主販売事業の他、午後は運動や音楽プログラム。祝日は小グループでの外出企画を行っている。

T. T. さんは5日間続けて実施。朝起きれないとのことなので、利用時間を9時から10時にずらして開始するも、毎朝少し眠そうな表情であった。また昼食後はイスに座ったまま居眠りすることもあった。

鉄道好きのPさんと親しくなるが、T. T. さんが作業中や食事中、休憩中にも切れ間なく話しかけてくるため、次第にT. T. さんを避けるようにしており、職員の配慮が必要である。

幾つかの作業を体験してもらうが、電子部品の組み立てでは部品を折ってしまい、苦手な様子。クッキー作りについては興味を持って取り組めた。しかし集中できる時間は短く、職員の声掛けが必要。本人は「仕事は好き」とのこと。

特別支援学校時代に仲の良かった同級生が3名利用しており、親しく話していた。

<介護分野>

1. 調査実施者（記入者）

K生活介護事業所サービス利用アセスメント表

実施日	平成30年10月27日		
記入者氏名	〇〇	所属機関	K生活介護事業所

2. 調査対象者

対象者氏名	T. T. さん	(男)・女)	生年月日	平成8年4月5日生
現住所	X県A市			

3. 障害者手帳等級及び支援区分等

障害種別	知的障害 てんかん	等級及び支援区分	療育手帳A 支援区分4
------	-----------	----------	-------------

1・生育歴に関わる状況

(生育歴)

平成8年、M県で生まれる。特別支援学校中学部3年生の時、現在のX県A市へ転居。A市内の特別支援学校高等部卒業後、市内のB作業所（現在の地域活動センターⅢ型）に通う。作用所を利用して2年程経過した頃から利用者間でトラブルを起こし利用を拒否するようになる。平成30年6月に正式に利用中止となる。

平成30年9月ごろから「外に行きたい」と言うようになり、母が勤務中に外に出ててんかん発作を起こしたことがあり、マンションの管理人から勤務先へ連絡が入るようになった。また母とのやり取りの中で不安定になる様子も見られ始めた。

在胎期	期間	10ヶ月	異常	有・無	
	特記事項				
出生時	異常	有・無	特記事項		
乳幼児期	始歩	1才6ヶ月	特記事項		
	発語	2才0ヶ月	特記事項		
	その他特記	3歳児検診で遅れを指摘される。			
学校・施設等の 利用履歴	年月～年月	学校等利用機関名		特記事項	
	平成15年4月	Z市立F小学校特別支援学級入学			
	平成21年4月	Z市立Z特別支援学校中学部入学			
	平成23年6月	A市立A特別支援学校中学部転入		父は単身赴任となる。	
	平成24年4月	A市立A特別支援学校高等部入学			
	平成27年3月	A市立A特別支援学校高等部卒業			
	平成27年4月	A市B作業所（地域活動センター）利用		利用するも、2年経過した頃からトラブルが出て、利用の回数が減ってしまう。	

2・健康状態などその他特記事項

(健康・医療) 身長160cm。体重70kg

・抗けいれん剤を朝夕の2回服用しているが、年に数回発作あり。BMI値が27.3のため、健康管理は配慮が必要。

・好きな食べ物：ハンバーガーとスナック菓子

3・家族状況

氏名	続柄	特記事項
T. S.	父	57歳。T. T. さんが中学部3年生のときから、会社の都合で単身赴任。お盆と年末年始ほか年に数回しか帰宅しない。帰宅時は電車で一緒に日帰り旅行に行く。住宅ローンの返済もあり、定年までこの状況は変わらない予定。
T. R.	母	53歳。T. T. さんの主な介護者。週4回パート勤務（近所のスーパー。9時～16時）していたが、T. T. さんが退所後、パートを週2回に減らし、T. T. さんの世話をしている。医者との関係はあまり良くない。
T. T.	本人	22歳
K. R.	姉	28歳。主婦。子どもが一人。隣の市に在住。T. T. さんのことについて協力的。しかし出産を控え、今後の協力範囲には限界がある。
K. M.	義兄	33歳。仕事が忙しく、T. T. さんのことについて関心が少ない。

【利用者の生活・行動等に関するアセスメント調査1】（K生活介護事業所アセスメント表）

領域	項目	支援項目	支援度					特記事項			
			1・支援なし	2・見守り・声掛け支援	3・一部間接支援	4・一部直接支援	5・全支援				
1	生活基盤	1 経済状況	○					障害基礎年金1級。			
		2 住宅環境	○					マンション。母と同居。			
2	健康管理	1 服薬管理					○	母は医師からの薬の処方に関して疑問を持っており、体調によって服薬を調整している。			
		2 通院					○	月に一度は母と共に通院。			
		3 発作対応					○	発作時は暫らく静養する必要。			
3	日常生活動作	1 食事摂取		○				食べ過ぎる傾向あり。体重を減少する必要がある。			
		2 排尿			○			時折周囲を汚してしまうことあり。			
		3 排便			○			時折周囲を汚してしまうことあり。			
		4 歩行		○				他のことに気を取られ、動作が止まることある。			
		5 移乗		○				促しが必要			
		6 入浴・洗体				○		本人がやろうとするが、最後は母が介助する。			
		7 入浴・洗髪				○		本人がやろうとするが、最後は母が介助する。			
		8 洗顔				○		本人がやろうとするが、最後は母が介助する。			
		9 衣類着脱			○			ボタンの掛け違いあり。			
		10 履物着脱			○			左右を間違えるため要支援			
		11 歯磨き				○		最近磨かないことが多い。仕上げ磨きの介助要。			
4	衛生	1 清潔保持				○		同じ服を続けて着てしまうため配慮が必要。			
		2 整容					○	髭剃りの支援必要。			
		3 爪切り					○	経験はない。			
		4 掃除					○	経験はない。			
5	家事	1 洗濯					○	経験はない。			
		2 調理				○		料理は興味あるが、ひとりで行わないようにしている。			
		3 その他 育児等						非該当。			
6	社会生活	1 日常の意思決定			○			不安定時に話の内容の整理など要支援。			
		2 金銭管理				○		1000円程度なら管理できる。			
		3 財産管理					○	母が年金等を管理している。			
		4 買物(選択)				○		鉄道や野球関係の購入希望があるが予算内での整理が必要。			
		5 金銭支払				○		1000円程度ならできる。			
		6 地元の地理等の理解				○		慣れない初めての場所は一人では戻ってこれない。			
		7 交通機関の利用				○		交通機関の利用は好きだが介助者が必要。			
		8 電話の利用					○	電話を掛けることはできない。			
		9 持物管理				○		所持品の管理は他者に依存している。			
		10 予定等の計画					○				
7	活動交流	1 意思疎通			○			不安定時に、話しの整理など要支援。			
		2 対人関係			○			親和的であるが、気分のムラがある。			
		3 外出活動				○		通所・通院には送迎の支援要。			
		4 余暇活動		○				TVで野球観戦。電車や鉄道雑誌を見たりする。			
		5 近隣との付き合い				○		同じマンションの住民・管理人とは顔見知り。付き合いは挨拶を交わす程度である。			
		6 就労					○	本人は「仕事したい」との強い希望がある。			
8	安全管理	1 火気管理					○				
		2 戸締り					○				
9	その他	1 緊急時対応					○				
		2 家族関係			○			父の単身生活は今後も続く。			
支援項目			ない	時々ある	ある	支援項目			ない	時々ある	ある
10	問題行動	1 ひどい物忘れ	○				12 支援者の関わりへの抵抗			○	
		2 周りのことに関心			○		13 目的もなく動き回る			○	
		3 物を盗まれた・叩かれたなど被害的になることが	○				14 自傷行為	○			
		4 現実でない話を作話する	○				15 他者に対して暴力行為を行う			○	
		5 幻覚や幻聴	○				16 周囲が困惑する性的行動	○			
		6 泣いたり笑ったり情緒が不安定		○			17 一人で外に出ていくなど目が離せない			○	
		7 同じ話をしたり不快な音		○			18 大声を出す・大泣きするなど著しい騒がしさ			○	
		8 他人のもの金品等を盗む	○				19 物や衣類を壊す行為			○	
		9 いろいろ集めたり無断で持ってくるなどが	○				20 故意と思われる尿・便失禁することが	○			
		10 昼夜逆転・睡眠の乱れ			○		21 不潔な行為(便をなすりつける等)	○			
		11 周囲が予測できない急な飛び出し	○				22 食べられないものを口に入れることの状態	○			

【利用者の生活・行動等に関するアセスメント調査2】（K生活介護事業所アセスメント表）

			利用者氏名	T. T. さん
意思疎通について	項目	内容	チェック (○・×)	特記
	意思伝達	話し言葉意思伝達する	○	不安定時に、話しの整理など要支援。
		サインやカードで伝達する	非該当	
		身振り手振りで伝達する	非該当	
		動くことによって伝達する	非該当	
		実物を示して伝達する	非該当	
		その他	非該当	
	理解について	時間の概念	○	普段の生活パターンの中では、おおよそ理解できる。
		毎日の日課	○	普段の生活パターンの中では、おおよそ理解できる。
		生年月日や年齢を答える	×	
自分の名前を答える		○		
自分の名前を書く		○	ひらがな。	
自分の今いる場所を答える		○	自宅など慣れている場所はわかる。	
自分の住所		×	住所は言えない。	
相手の言葉の理解	理解できる	非該当	不安定時は相手の言葉が入らない。分かりやすい言葉を使う配慮が必要。	
	ところどころ理解する	○		
	会話・言葉が通じない	非該当		
読字について	・漢字 ・カタカナ <u>・ひらがな</u> ・数字 ・理解できない			
余暇・趣味	項目	内容	チェック (○・×)	特記
		趣味など楽しみにしていること	○	TVで野球観戦。鉄道が好きで、雑誌から切り取った電車の写真を部屋に貼ること。
		現在参加しているレクリエーション	×	
		現在楽しみにしている外出先	○	電車を見たい。プロ野球を見たい。
		現在参加している当事者団体活動もしくは各種社会的活動	×	
		傾聴ボランティアなどの関わり	×	
		その他		
家族状況特記事項	主たる介護・援助者の状況	母53歳。週2回パート勤務。		
	介護・援助上の問題点	無断外出と、主たる介護者である母とのやりとりが困難なことがある。日中の支援も必要。		
	家族関係および障害の理解	父は障害の理解はあるが、年に数回帰宅時に一緒に行動をすること以外は妻に任せている。母はT. T. さんの服薬を調整している。姉はT. T. さんのことについて協力的。		
行動面での特記事項	性格	親和的な性格であるが、相手の状況を理解しないままいろいろと話しかけて疎まれる。		
	情緒面	自分の意志を伝えられないときに大声を出したり、手が出ることもある。		
	こだわり等	趣味に熱中していると、なかなか切替えが出来ないときがある。		
	パニック等	特になし。		
B作業所での状況	定員20名ほどの事業所で軽作業が中心。当初はT. T. さんもハサミを上手に使う等意欲的であった。しかし起床時間が遅くなりがちで月に10日は欠席する。また、利用開始後2年経過した頃に、他利用者がT. T. さんの席を使ったことに対して手を上げてしまうトラブルが起き、職員が介入するも解決出来ず。更に利用中に何回かてんかん発作を起こし、母が本人の体調に合わせて抗けいれん剤を調整していることを職員から問題視された頃から利用頻度が減り始め、退所するに至った。なおB作業所は他法人に合併され現在は無い。			
本人・家族の意向	本人：一人で家にいてもつまらないので、また仕事をしてみたい。 母親：B作業所を辞めて4か月経過したが、本人は家でテレビを見たり雑誌を見て過ごして生活しており、このままの生活は良くないと考えている。母は仕事をしているため、事業所の情報を得ることが難しい。本人に合った事業所に通つことを希望。			
サービス管理責任者の所見	T. T. さんは22歳と若いことから、今後も多くの社会経験が必要であろう。当事業所を利用し、当面は「生活リズムを整える。次に作業やレクリエーションを通じて社会性を高める。」ことを行いたい。その後の生活、余暇活用・健康面については、相談支援事業所や他事業所と共に検討する必要が生じるだろう。			